

日社 飛 長
2007. 11. (土)
大学院

会話分析とインタビュー調査 (研究法・調査法 (1))

教室 8-203 (ビデオ・プロジェクト)
司会者 串田 秀也 (大阪教育大学)

- | | |
|---|---|
| 1. 高等教育のコミュニケーション分析 (1) —— 研究の狙いと工学部都市工学演習の実際 —— | ○徳島大学 榎 田 美 雄 17
国際基督教大学 沼 田 光 弘 子
光稜女子短大 五十嵐 素 子
大阪医科大学 五 宮 崎 彩 子
大阪医科大学 出 口 寛 文 郎
東京大学 真 鍋 陸 太 |
| 2. 高等教育のコミュニケーション分析 (2) —— 医学教育のPBLにおける規範的な秩序 —— | ○国際基督教大学 岡 田 光 弘 18
徳島大学 榎 田 美 雄 子
光稜女子短大 五十嵐 素 子
大阪医科大学 五 宮 崎 彩 子
大阪医科大学 出 口 寛 文 郎
東京大学 真 鍋 陸 太 |
| 3. 会話分析で「心」に迫る: 「思う」を題材として | 明治学院大学 田 中 剛 太 19 |
| 4. 「解釈的エスノグラフィー」における認識論的諸前提の検討 | 東北大学 新 田 貴 之 20 |
| 5. 「解釈レパトリー」概念の検討 —— 美術館来館者へのインタビューを素材として —— | 一橋大学 田 邊 尚 子 21 |
| 6. 日常場面において「変化」はどのように語られるのか —— 「思い出」おしゃべりのマイクロ相互作用分析 —— | 成城大学 南 保 輔 22 |
| 7. 生きづらさを感じる人々による自己表現 —— アートやセルフ・ドキュメンタリーで「自己を表現する」ということ —— | 京都造形芸術大学 藤 澤 三 佳 23 |

研究法・調査法 (2)

教室 8-301 (プロジェクト)
司会者 田中 重人 (東北大学)

- | | |
|---|--|
| 1. 世論調査報道のあり方と調査論の課題 —— NHK ニュースの世論調査報道をめぐって —— | 関西学院大学 大 谷 信 介 24 |
| 2. 沖縄総合社会調査の概要 —— 公開マイクロデータの構築をめざして —— | ○琉球大学 安 藤 由 美 25
琉球大学 鈴 木 規 之
琉球大学 野 入 直 美
一橋大学 多 田 治 治 |
| 3. 東アジアにおける価値観・政治志向・民主主義 —— 「アジア・パノメーター調査」のデータ解析 —— | 関西学院大学 真 鍋 一 史 26 |
| 4. 相乗平均にもとづく瞬間変化指標 | 九州大学 鈴 木 讓 27 |
| 5. 電子媒体と紙媒体による調査結果の比較 —— 電子的スケール変数測定の特性 —— | ○帝京大学 池 石 周 一 郎 28
帝京大学 井 浦 秀 夫 邦
帝京大学 大 神 山 英 樹
帝京大学 神 野 英 樹
立教大学 村 瀬 洋 博
明治大学 加 藤 彰 彦
上智大学 野 宮 大 志 郎
文教大学 八 橋 武 明 |
| 6. 郵送調査と電話調査の回答傾向の相違 —— | 常磐大学 篠 原 清 夫 29 |
| 7. 回収率はなぜ向上したのか —— JGSS-2005 と 2006 の比較 —— | ○大阪商業大学 保 田 時 男 30
大阪商業大学 六 戸 邦 章
大阪商業大学 岩 井 紀 子
大阪商業大学 都 村 間 人 |

地域 (1)

教室 8-205 (プロジェクト)
司会者 中澤 秀雄 (千葉大学)

- | | |
|--------------------------------|------------------|
| 1. 京都の舞妓を生みだす力 —— 花街・遊郭像の変化 —— | 立命館大学 竹 中 聖 人 31 |
|--------------------------------|------------------|

会話分析とインタビュー調査(研究法・調査法(1))

1. 高等教育のコミュニケーション分析(1)

—研究の狙いと工学部都市工学演習の実際—

○徳島大学 榎田 美雄
 国際基督教大学 岡十 光素
 光稜女子短大 五 嵐子
 大阪医科大大 宮崎 彩
 大阪医科大大 出真 寛
 東京大 学 陸太郎

I. はじめに—研究の狙い—

本研究の理論的立場は、「状況的学習理論」および「エスノメソドロジー・会話分析」である。この立場では、学生の能力というものは、学生の一身に属するようなものではなく、集団の中で集散的に達成されるものであるということになる。したがって、新しい高等教育手法がどのように達成されているかを確認するためには、実際にその教育が行われて能力が達成されている場面の研究、集団のなかで学生が学んだり評価されたりしている場面のデータに基づいた研究が必要である、ということになる。我々は、このような研究の狙いをもって、2つの研究会（東京ビデオエスノグラフィー研究会と大阪ビデオエスノメグラフィー研究会）を組織し、昨年から今年にかけて3大学の5つの教育実践（医学部におけるPBLチュートリアル、工学部における都市工学演習、総合科学部における家族社会学ワークショップ等）をビデオ撮影した。現在はそれらの整理・分析をしつつある。

II. B大学工学部調査の概要（省略）

III. <専門性>のコミュニケーション的基礎：「新専門概念」の作られ方

各班には、(新しい都市工学的な)「指標づくり」という課題が与えられていた。我々が注目した班(1班)では、「日陰度」という指標が構想されていたが、この「新概念」の作られ方において「建坪率」との類推が積極的に表示されている事例があった。すなわち、言い間違いを繰り返す方法で都市工学的な通常用語との関連が示唆されていた。

IV. <共同作業>のコミュニケーション的基礎：「場面構成的無知」の提示の仕方

各班には、それぞれ一つの調査地点が与えられて現地調査に基づいて「新指標」を作ることが要求されていた。この作業を6人で共同する場合に、どのような手続きで「理解」の共同がはかられているか観察をしたところ、「場面構成的無知」とでも呼べるような現象が起きていることが発見された。すなわち、「理解」を確かめる発話を同僚に求める際に、自分が答えを知っているにもかかわらず「質問—応答」隣接対を用いて相手の発話を求めているケースが確認された。

V. まとめ（省略）

※本報告は、文科省科学研究費補助金「高等教育改革のコミュニケーション分析—現場における文化変容の質的検討—」(基盤研究(B)、課題番号 18330105、研究代表者：榎田美雄)ほかによる研究成果の一部である。

2. 高等教育のコミュニケーション分析(2) ——医学教育のPBLにおける規範的な秩序——

○国際基督教大学 岡 田 光 弘
 徳島大学 榎 十 美 雄
 光稜女子短期大学 五 十 素 子
 大阪医科大学 宮 出 彩 子
 大阪医科大学 真 鍋 寛 文
 東京大学 陸 太 郎

本報告では、教室という場に参与している人たちが、そこで与えられた課題を成し遂げようとして行われる学習の過程について、フィールドワークによって、その詳細を明らかにして行く。医学部生は、問題解決型の授業(PBL)において、シナリオと呼ばれるテキストから、チューターの手助けを受けながらも、さまざまな物的資源(配布物、ホワイトボードなど)を活用しつつ、学習課題をお互いに明確なものにしていく。研究の目的は、この課題を遂行していく過程において、学生たちの振る舞いの中に、どのように規範的な秩序が姿を見せるのかというものである。ビデオ録画されたデータにおいて、参与者である学生の振る舞いは、その細部まで協調していることが明らかにされた。この点から、学習者が教室に特定の規範的な秩序に指向しているといえるだろう。観察社会学の関心から言うなら、指定された手順を踏んで行われる学習過程を通じて、学習過程としてあらわれた現象から、状況に埋め込まれた社会秩序という問題を扱っていることになる。規範的な秩序および社会構造と呼ばれるものの意味は、そこに配置されている物(プリントのような配布物やホワイトボード)、ことばや語り、そしてジェスチャーといった身体的な行為からなる接続によって、実際の行為が結び付けられていくなかで構築されているのである。

フィールドでは、二台のビデオカメラが使用された。ワイドコンバージョン・レンズがついた二台のカメラは頭越しに、斜めから学生の様子が見える角度に設置された。もう一台は、ホワイトボードとそこに書き込みをする学生の映像が撮れるように設置されていた。それによって、書記となった学生がホワイトボードを使っている間、ホワイトボードに書かれたこと、およびその周りで起こる出来事を把握することが可能になった。

この状況への参与者は、次々と報告者になる学生である。報告者のうちのひとりが司会者となる。もうひとりが記録係となる。さらに板書という形で参加する学生は、報告はしない。全員に、次回までの学習項目が割り振られる。それ以外に、その場の議論の進行を手助けするチューターがいる。本報告で具体的に明らかにされるのは、

- 1) 板書はどのような規準で行われていくのか
- 2) 報告と板書はどのように関係付けられていくのか

といった点である。実際の活動について、具体的なデータに基づいて詳細に検討していくことで、教室の規範的な秩序といったものが明らかにされる。